

アベちゃん「ギャンブル」 「美しい日本」が壊されていく

—地球市民の書棚から②⑥

地球市民 大村 昌宏



アベちゃんがまたしても大暴走している。「海外からの観光客を呼び込む」ためだと称して数の力でカジノ法（統合型リゾート推進法）を国会で押し通してしまった。これには日頃、彼に理解のある読売新聞ですら「人の不幸を踏み台にするのか」と批判した。

日本ではすでにギャンブル依存症が500万人を超え、人口比率では5%もいる。爾来、日本では、「勤労を美德」とする道徳観があった。「額に汗して働くこと」は美しいことであり、技術に秀でた方を「匠（たくみ）」と讃えてきた。そしてその対局にあるのが博打・ギャンブルであり道徳的頹廢とされてきた。ブルーカラーを卑下し、カジノを貴族・富裕層などが興じる特権とし、マフィアがカジノでマネーロンダリングしてきた欧米とは一線を画すものだった。

そう言えばアベの経済政策「アベノミクス」もギャンブルに近い。実体経済の改革・充実ではなく、「株式市場の動向」に一喜一憂する。あげくの果ては、大切な国民の年金基金まで「株ギャンブル」つぎ込む。「史上かつてない金融緩和」を「どう軟着陸させるのか」アベノミクスを推進してきた者達は誰も語らない。「アホノミクス」と批判してきた経済学者の浜矩子さんは「どアホノミクス」と語気を強めている。カジノは「どアホノミクス」の重要な成長戦略の柱だそう。アベのめざす「美しい国」は、どんな社会なのだろう？

狙われているのは 日本人の「懐(ふところ)」

「観光立国」海外からのお客さんをさらに呼び込もう、これは大切な戦略だと思う。しかしカジノが観光立国に役立つのだろうか。

山田厚史さんが次のような指摘をしている。「ずばり狙われているのは日本人の懐だ」。国際カジノ資本は、「太ったカモ」が沢山いる場所にカジノを開きたい。それには日本の大都市は格好の狩場。狙われているのは「日本人の貯蓄」だと。

そして「どうやらカジノの利権は大阪がMGM、横浜はサンズで、裏の話は付いているのではないか。オリンピックや大阪万博もこのシナリオに沿っている。」話がついているなら、ビジネス側は急ぎたい。「早くしろ！」「何しているのか」という

矢の催促が、与党の「愚挙の背後にあると想像してしまう。」<山田厚史の「世界かわら版 123 回 2016/12/8 <http://diamond.jp>>

この指摘に対し「これ陰謀説の一つ？」と当初思ったが、カジノ推進派の理論的バックボーン、谷岡一郎氏（大阪商業大学学長・教授）の発言を聞いて合点がいった。谷口氏は統合型リゾートのメリットを縷々あげつつ次のように述べている。「海外客は1割以下で、国内客を中心に設計すべきでしょう。とりわけ10万円から100万円を自由に使える層がターゲット。昼も夜も充実した時間にできるIRがあれば、たとえば20年に1回だった大阪での医師たちの会議が10年に1回になる。お金と人の回転がすごく速くなります。」<（耕論）カジノのある国 2016/12/15 朝日新聞 >